

特集

大潮流「医療DX」でクローズアップ

進化形 診療情報管理士

医事 業務

Bi-weekly Medical Services

2024
創刊30周年

11.15
NO. 680



- 1 座談会
- 2 特別寄稿
- 3 グループワーク
- 4 見学会
- 5 取材報告

産労総合研究所
附属 医療経営情報研究所



小規模病院が行う施設との連携

社会医療法人栄公会 佐野記念病院 地域連携室 チームリーダー 谷川泰寛

佐野記念病院（以下、当院）は、関西国際空港対岸の大阪府南部泉州医療圏に位置し、急性期（53床）・回復期病棟（42床）計95床の小規模ケアミックス病院です。急性期病棟では骨折外傷や脳卒中の治療を対応し、手術は整形外科を中心に約2,000件実施しています。回復期病棟においては急性期治療後の集中的なりハビリテーションを提供し、「地域の健康寿命延伸に貢献する」ことをグループの共通ミッションに掲げています。また、整形外科と脳神経外科の二次救急医療機関として地域医療を担っており、周辺介護施設からの受診依頼も少なくありません。

外来施設枠の開設

団塊の世代が75歳を迎える「2025年問題」の波は、大阪泉州地域での高齢化による影響も伴い、周辺介護施設の大幅増加という形でも押し寄せています。泉佐野市の住宅型有料老人ホームは、直近3年で8件から18件と倍以上になりました。

そのような状況下で当院では、整形外来限定で地域の介護施設入所者専用の「外来・施設予約枠」を2018年に開設しました。待ち時間軽減を目的に当日予約も可能としたことで、本人の身体的負担軽減に加えて、付き添いスタッフの拘束時間軽減、ひいては施設に残っている施設スタッフや、ほかの入所者の心身の負担軽減にもつながったと考えています（図表1）。

しかし、施設枠のない脳外科においては、転倒による数日前の頭部外傷や、発症後数日たった脳梗塞の方が受



病院概要

病院名：社会医療法人栄公会 佐野記念病院
所在地：大阪府泉佐野市中町 2-4-28
電話：072-464-2111
病床数：95床

図表1 外来・施設予約枠の案内

介護施設 専用予約枠

を新設しました【整形外科】

佐野記念病院では、地域の介護施設に入所されている方にスムーズな診療を受けていただくため、お昼の時間帯に「介護施設専用予約枠（整形外科）」を行っております。

紹介状がなくても、予約を取れば待たずに診療を受けられます

介護施設専用予約枠 医師担当表（整形外科）				
月	火	水	木	金
林	林	信田	櫻井	林

※診療時間に関しては、地域連携室へご確認ください。

▼ご予約は 地域連携室へ▼

TEL 072-464-2113

《内線ダイヤルイン》 各川 706 / 日根野 705 / 瀬西 708 / 中村 707

※必ずしも地域連携室へお電話ください。
※お電話もしくは介護施設専用予約枠 FAX 072-464-7162 ください。
※予約枠は限定的です。当日より「予約枠」をご利用いただけます。
※診療へ診察にお越しください。その際、予約番号をお持ちください。

社会医療法人 栄公会
佐野記念病院

図表2 選択式に変更した問診票

問診票

ID No. [] 来院時間 [:]

■いつ頃からですか？ 年 月 日
() 週間前・ヶ月前・年前

■どのような症状がでていますか？
☐ 痛み ☐ 腫れ ☐ 熱感 ☐ しびれ ☐ 変形
☐ 赤くなっている ☐ 出血 ☐ 傷 ☐ できものがある
☐ その他 []

■原因と思われることはありますか？
☐ 転けた ☐ 落ちた ☐ ぶつけた ☐ ひねった ☐ 切った
☐ はさんだ ☐ その他 ()
☐ なし ☐ わからない

■薬や食べ物でアレルギー反応をおこしたことはありますか？
☐ あり ☐ なし
(薬) [] ⇒ (症状) []
(食べ物) [] ⇒ (症状) []

■現在、治療中の病気はありますか？
☐ あり ☐ なし

■症状のある部位はどこですか？
(下の絵に○で印をつけて下さい)

右 左 左 右

診されたケースもありました。また、近隣介護施設に行ったアンケートより、受付手続きに要する待ち時間の指摘もあり、病院受診へのハードルはいまだ一定程度あると思われました。そこで、施設スタッフとの連携改善を図るため、次の3つの取り組みを実施しました。

(1) 夜間や土日の来院ケースも追跡・確認

1つ目は当たり前のことかもしれませんが、夜間や土日など「連携室不在時間に受診された方の状況を追跡し確認する」という取り組みです。

具体的には、再診予約がないケースでも、施設スタッフに一営業日以内にその後の様子確認の連絡を行うよう部内でルール化しました。夜間や土日は双方とも少ない人員で普段と同じ対応や共有ができていない可能性もあるため、あらためて連携している相談員に結果報告や様子確認を行い、何かあれば遠慮なく連絡いただくように案内しました。

(2) 受付手続きの迅速化

2つ目に、受付手続きの迅速化を図りました。具体的には、問診票を事前に記載できるようホームページよりダウンロード可能とし、整形外科の問診票を従来の記述式から選択式に変更しました（図表2）。

そのうえで、整形外科に関しては「紹介状や問診票に相当する情報の持参があれば、問診票の記入は不要」としました。情報の重複は双方のスタッフの生産性低下にもつながることから、受診依頼があった際には準ずる情

図表3 介護施設ホットラインの案内

整形外科・脳神経外科

介護施設ホットライン

重症・軽症に関わらずまずはご相談ください

転倒した、けがをした、痛みがある、不安がある、など、お気軽にご相談ください。

佐野記念病院
地域連携室 各川

070-3141-7694

担当：各川 泰寛（内科・外科）
相談：各川 泰寛（内科・外科）

※利用時間：平日 9時～17時、土日 9時～17時、夜間 24時間受付

※利用時間：平日 9時～17時、土日 9時～17時、夜間 24時間受付

報の持参を積極的に促し、問診票の記載を減らすように努めました。

(3) 介護施設ホットラインの開設

3つ目に、受診相談がしやすくなるように「介護施設ホットライン」を導入しました。具体的には、二次救急医療機関として対応可能な整形外科・脳神経外科疾患に関して、連携室不在の夜間や土日の時間帯でも、24時間365日、同様に連携室に連絡いただくことで看護当直や事務当直に転送でつながるようにしました。

転送対応した際には連携室と同じように、基本的に医師に相談のうえで受診調整を図る流れにしたため、実際の口頭での説明では「『ホットライン』と大それた名前にしていますが、医師に直接つながるとか、そんなに敷居の高いものではないので、看護師がいなくても時間帯ですぐに受診したほうがよいか分からない際や、いつもより少しだけしゃべりにくそうにしてる…など、ささいなことでも、いつでも気軽にご相談ください」と案内しています（図表3）。

取り組みの結果

これらの取り組みの結果として、あくまでより良い連携の指標の1つではありますが、新たな取り組みを始めた昨年10月から今年7月までの施設からの受診調整件数は、前年同期比122%（月3件増）となり、うち入院件数は、前年同期比135%（月1件増）となりました。

図表4 介護施設からの受診調整件数（連携室調整分のみ）

※新型コロナクラスター発生（単位：件）

前年同期	2022年			2023年									合計
	10月※	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月※	8月	9月	
件数	6	13	11	13	17	17	17	15	17	9	12	16	163
内入院	2	4	3	1	2	3	5	2	4	2	3	4	35

新規 取り組み 開始後	2023年			2024年									合計
	10月	11月	12月	1月	2月※	3月	4月	5月※	6月	7月	8月	9月	
件数	16	15	13	18	9	17	16	10	26	25			165
内入院	2	4	3	6	2	6	1	2	6	6			38
備考	追跡連絡 開始	問診票 HP掲載		問診票 チェック式へ		問診票準ずる 情報で不要へ			ホットライン 開始				

また、日は浅いですが、施設ホットライン運用開始後の受診調整件数は、前月までの平均値150%（月10件増）と大幅増となりました（図表4）。

件数増加の考察

夜間や休日など連携室不在時間に受診された際、一営業日以内に状況を追跡するようアフターケアを充実させたこと、施設ホットラインを導入し、連絡先の一本化を図り受診相談しやすい体制にしたことより、施設スタッフとの連携が強化され適切なタイミングでの受診が促進されたと考えています。

また、問診票をダウンロード可能とし、整形の問診票をチェック式に変更したこと、準ずる情報があれば元より問診票は不要としたことで、施設予約枠も相まって当院滞在時間がより短縮され、入所者や施設スタッフの負担を軽減できたと考えられます。そのうえ、受診調整の件数や入院件数の増加から考察すると、介護施設から当院に受診するハードルも一定程度軽減されたと思われます。

時代のニーズに合わせた 改良改善に取り組む

今回の取り組みは、医師や外来の各部署と一体的に連携を図った結果、受診件数増加等の成果を上げることができました。しかしながら、介護施設に行ったアンケートより患者が当院に受診する際、「家族の来院可否」や「入院手続きに要する時間」なども懸念点として挙げられました。

施設スタッフのみの付き添いで家族に同意が取れず、診療が進まないことに難色を示す医師がいるため、今後の課題として話し合う予定です。また、入院手続きに要する時間に関しては、入院時に複数の部署スタッフがかかわるため、聞き取り情報の重複があるかもしれません。今後はその整理も行い、入院手続きの時間短縮に努めていきます。

今後も栄公会グループの理念である「三方よし」（患者さん・利用者さん、職員・グループ、地域社会、それぞれにとってよいことを実践し未来を豊かにする）を目指し、既存のやり方に捕らわれず、時代のニーズに合わせた改良改善を重ねてまいります。M